

# 認知症地域支援推進員に必要とされる ネットワークづくりの重要性と展開

鹿児島県 霧島市  
社会福祉法人 霧島市社会福祉協議会  
霧島市地域包括支援センター  
霧島市認知症地域支援推進員 福田 竜光

# 1. 私が暮らす霧島市をご紹介します



**鹿児島県第二のまち**

**ソニー・京セラの工場 農業も盛ん**

**天孫降臨の高千穂の峰**

**県の中央に位置し、鹿児島空港があり、  
お茶が有名**

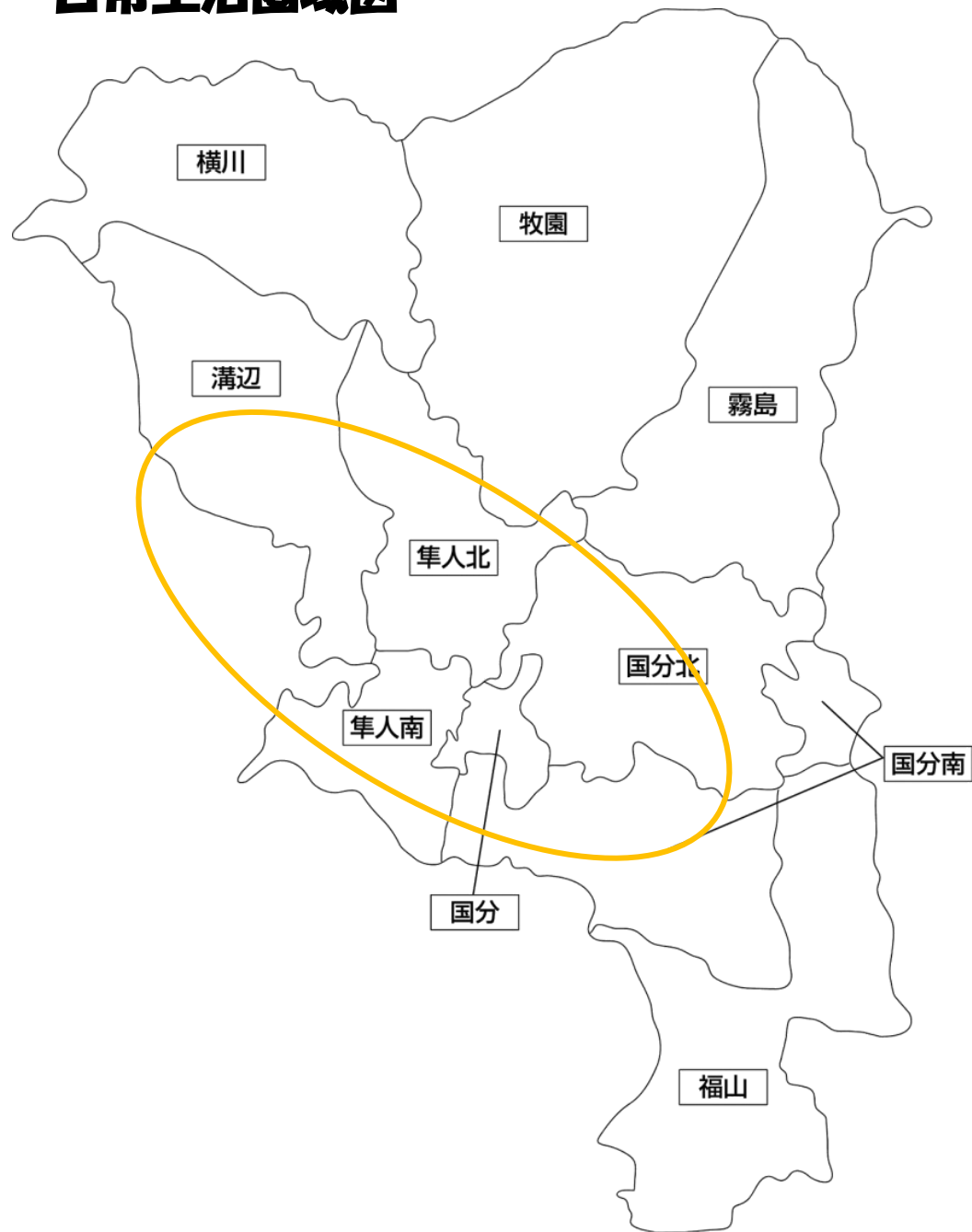
**温泉が有名**

**(坂本龍馬とお龍、日本初の新婚旅行の地)**

**黒酢・壺畑が有名**



## 日常生活圏域図



平成17年に、1市6町が合併。

面積: 603.18km<sup>2</sup> 人口密度: 210人/km<sup>2</sup>

総人口: 126,938人

高齢者数: 32,010人

高齢化率: 25.22%

認知症高齢者の自立度Ⅱ以上 3,799名

旧市町単位では、高齢化率の差があり

国分地区20.05%～牧園地区41.77%

地域包括支援センター: 本所18名

10支所各1～2名

認知症地域支援推進員数: 3名

(H28.5.31現在)

## 2. 霧島市の認知症施策一覧

事業名	目的	事業内容
認知症施策総合推進事業	霧島市地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、地域における認知症ケア体制及び医療との連携体制を強化し、認知症の早期発見等の医療と、介護の切れ目のない総合的な支援体制の確立を図る。	(1)地域におけるネットワーク体制の構築を行う。 (2)認知症疾患医療センターにおいて認知症の確定診断を受けた者に対する支援を行う。 (3)地域において、認知症に対する各種の保健医療及び介護サービス等の内容、利用方法に関する情報の提供を行う。 (4)若年性認知症に関する支援を行う。
介護予防普及啓発事業 「脳いきいき教室」	市内の65歳以上の高齢者を対象とし、介護予防に関する知識の普及・啓発を行うことで生活機能の低下、特に脳の活性化による認知症を予防する。	1. 介護予防検診(生活機能評価)を受診し、基本チェックリスト認知症問診項目にチェックのある者を対象とし、1会場15名程度の人数で市内の旧市町ごとに募集を行う。 2. 脳活性化プログラムや軽い運動を1回あたり120分の実施時間で各会場計9回程度を行う。 3. 1回目と最終回目に評価を行い、本事業に参加しての前後を比較する。
「わたしのアルバム」 (霧島市認知症連携バス)	自分の人生を振り返り、印象に残っている事や今、書いておきたい事を記入しアルバムとして保存し、認知症などで意思の伝達や自己決定が困難となった時でも自分らしい生活を継続できる一助とする。	1. 包括支援センターが中心となり、広報・啓発を行う。 2. ご本人がアルバムを作成する。 3. 分かりやすい場所へ保存する。 ※紛失が心配な方は包括にてデータをスキャンし保存することもできます。 4. 自分の意思を表明することが困難になった時に、介護サービス提供事業所において情報共有を行いご本人様に寄り添ったケアを行う。
認知症高齢者早期発見 促進事業	高齢者が、もの忘れ外来【認知症に関する国や県の研修を受けた医師】を受診し、認知症の早期発見、早期治療を促進する。 ※物忘れ外来委託医療機関(26医療機関)	1. 65歳以上で、ひどい物忘れなどの症状のある方ご本人、もしくは家族が地域包括支援センターへ相談してもらう。 2. 包括支援センターは、基本チェックリストの項目や認知状況を確認し、ご本人に受診を勧め「もの忘れ外来受診券」を発行する。 3. ご本人は「もの忘れ外来受診券」を持って受診する。 4. 包括支援センターは受診結果に基づきご本人の支援を行う。



## 霧島市の認知症施策一覧

事業名	目的	事業内容
家族介護者交流会「このゆびとまれ」	介護者どうしが気軽に語り合う場を設けることにより介護のヒントを得てもらい、心の負担を軽くしてもらう。	公民会文書を通して広く市民に広報し参加者を募る。 当日はグループ形式とし、コーディネーターが会話を誘導し介護者が自分の気持ちや状況を自由に話せる雰囲気づくりを行う。 地域包括支援センター主催で、市・認知症と家族の会鹿児島県支部・松下病院が共催して行う。
霧島市認知症高齢者見守り事業	地域における認知症高齢者の見守り体制を構築し、認知症高齢者及びその家族等の状況やニーズを日常的に把握するため、その核となる認知症高齢者見守りリーダーを設置し、認知症高齢者等が、住み慣れた地域で、安心して自立した生活を継続できるよう支援する。	(見守りリーダーの活動内容) ・認知症に関する広報・啓発活動。 ・認知症高齢者見守りネットワークの構築。 ・その他、認知症高齢者等の支援。  ※事業は、霧島市社会福祉協議会に委託して実施する。
認知症高齢者見守りネットワーク事業	市民への認知症理解を広め、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの促進(モデル地区)単人南、横川	地域の中で認知症の人やその家族が安心して生活するための幅広い啓発と理解促進を行う。(認知症サポーター養成) 見守り体制づくりの実践として「徘徊模擬訓練」を行い認知症への理解と支え合いのネットワーク形成を進める。
認知症サポーター養成	認知症について偏見をもたず正しく理解し、あたたかく見守る応援者(サポーター)を養成する。	住民や企業、学生等を対象とし、地域包括支援センターから講師を派遣して、1時間半程度の出前講座を実施する。 講座では、わかりやすいテキストを用いて、認知症についての正しい知識や、対応方法などを話し、修了者には、「わたしは、認知症の人を支援します」という意志をあらわす「オレンジリング」を渡す。  <b>H28年度:1,842名</b>
認知症カフェ事業	認知症の方やその家族の居場所づくりや相談の場の提供を目的とし、家族同士の交流の場として活用することにより、認知症やその危険因子の予防の大切さや理解を深めることを目的とする。	・認知症カフェは主に初期の認知症の方や家族、地域住民らが集い、悩みを打ち明けたり、交流する場としての活用が図られるよう必要な支援等を行う。 ・認知症に関する啓発活動や認知症予防(認知的予備力の強化・環境調整)をテーマに教室を開催する事によって、認知症や生活習慣病の予防の大切さを理解し、地域でその人らしい生活を送れるように支援していく。 ・事業は、認知症疾患医療センター松下病院に委託して実施する。  <b>H28年度:自主事業で、2医療機関・1社会福祉法人が追加</b>

### **3. 今回報告させていただく活動・取組の位置づけ**

#### **認知症施策総合推進事業**

**地域における認知症ケア体制および医療との連携体制を強化し、認知症の早期発見等の医療と介護の切れ目のない総合的な支援体制の確立を図る。**

**地域におけるネットワークの構築を図る**

## **4. 霧島市認知症地域支援推進員に求められること**

**認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター、を含む医療機関や、介護サービス事業者や認知症サポーター等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。**

**地域の実情に応じて、地域における認知症の人とその家族を支援する相談支援や支援体制を構築する。**

ボランティア

認知症の人  
と家族

民生委員  
在宅福祉ア  
ドバイザー

霧島市

地域密着型  
サービス事  
業者連合会

認知症介護  
指導者等

自治公民館長  
公民館長

作業療法士  
会

## 5. 認知症地域支援推進員の活動

霧島市  
ライフサ  
ポートワ  
ーカー

～多くの方・機関の理解と協力のもとで～

介護保険サ  
ービス事業所

認知症疾患医  
療センター

介護支援専  
門員等

障害者就労継  
続支援事業所

警察

小中学校等

医師会  
歯科医師会  
薬剤師会

認知症サポート医  
かかりつけ医



**まず、市町村との連携は必須。**

**行政担当者と何度も話し合い、青写真を描く。  
しかし、行政担当者と推進員だけでは、何も始まらない。**

**誰の・・・どの機関の・・・協力が必要か。**

**認知症サポーター養成から広がる、支援ネットワークの動向**

# 霧島市認知症キャラバンメイト事務局として

霧島市も平成20年から認知症サポーター養成講座に取り組んできた。

**【事務局】**

**H20年～H23年**

**市役所**

**H24年～**

**地域包括支援センター**

**【サポーター数】**

**H20年～H23年**

**認知症サポーター数 2,751名**

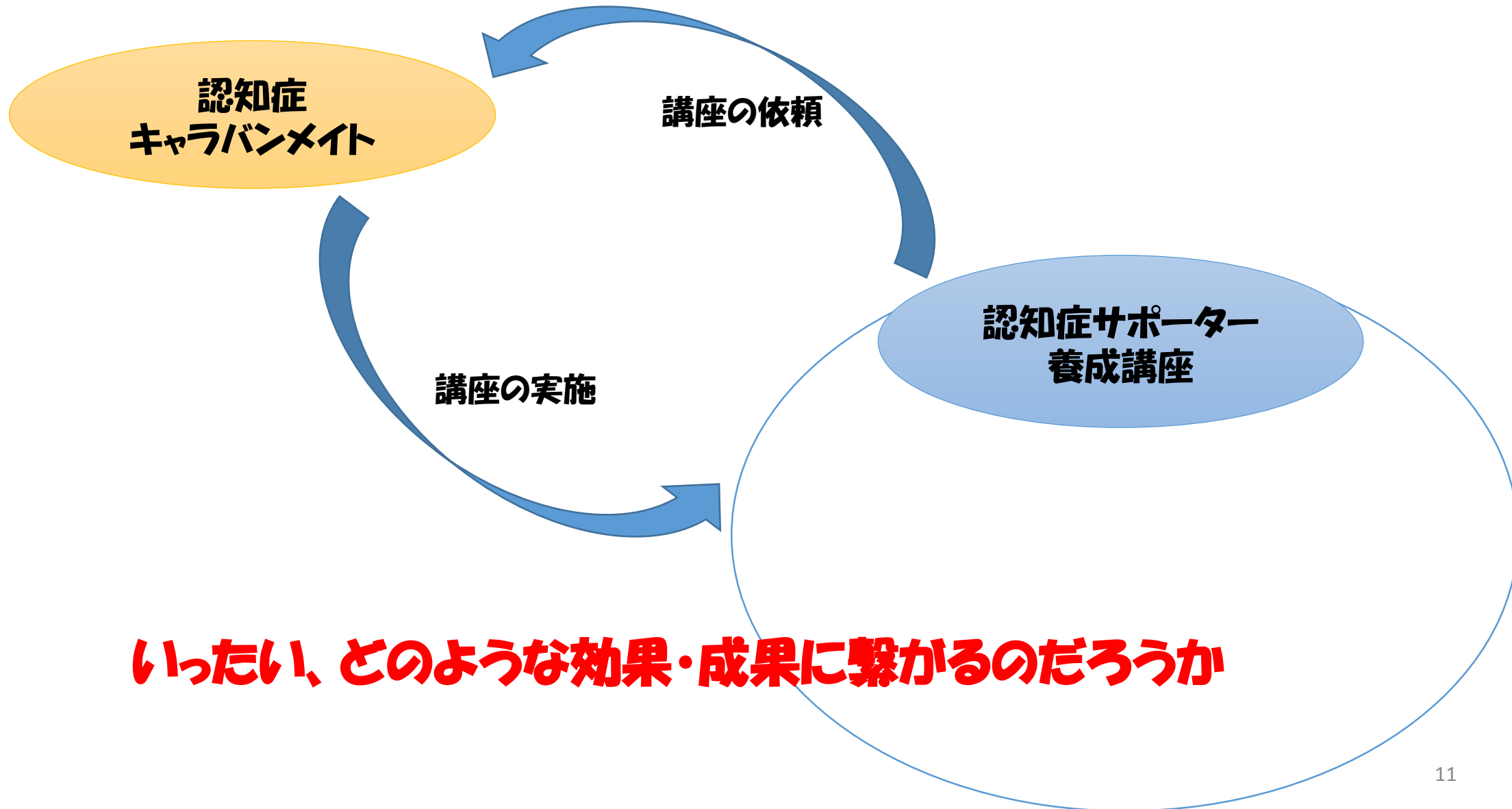
**小中学校への実施なし**

**H24年～**

**認知症サポーター数 8,217名**

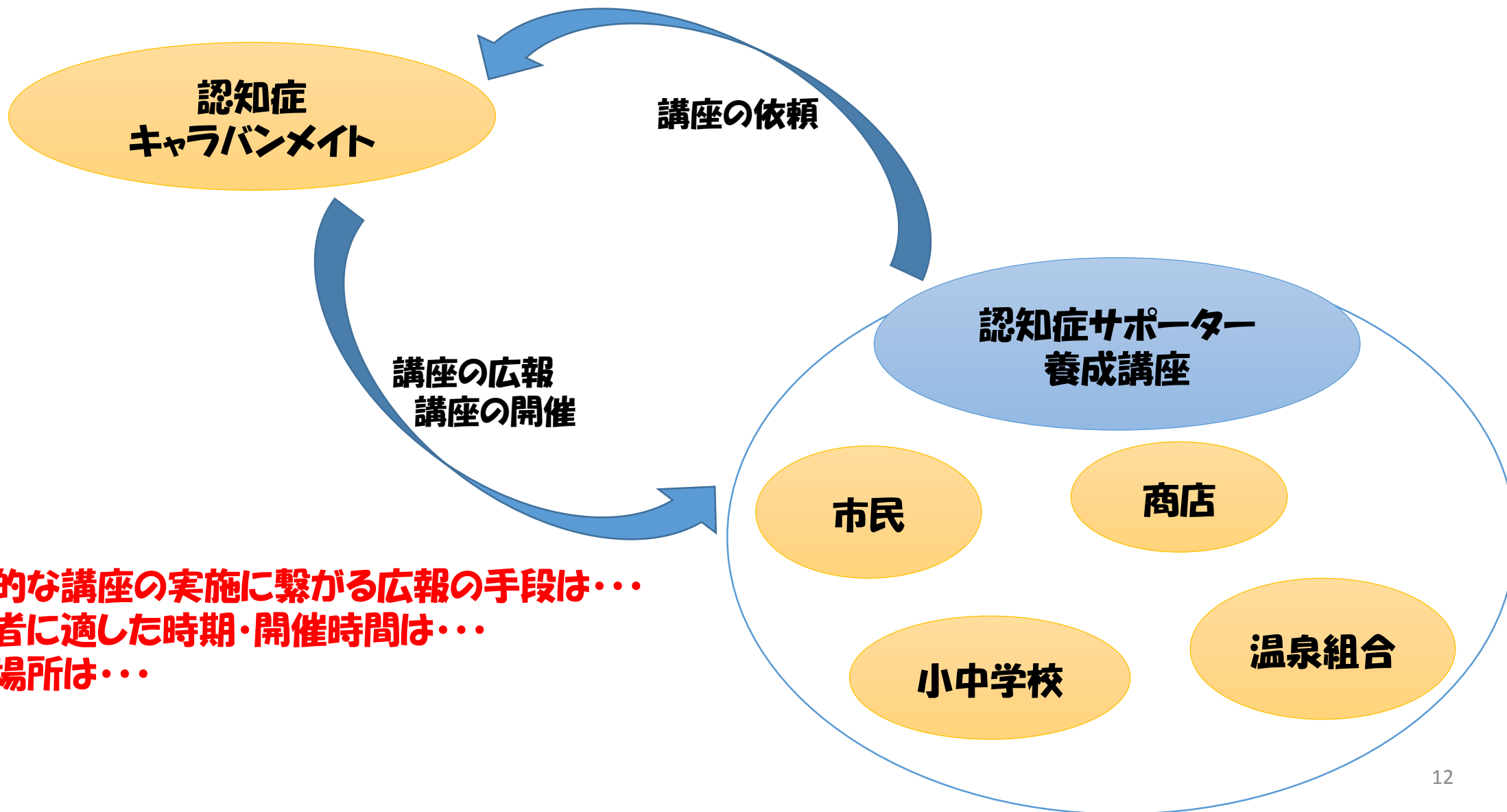
**小中高等の学生 2,556名**

**H20年～H23年は、養成講座の依頼を受けて、実施していた。**



**いったい、どのような効果・成果に繋がるのだろうか**

H24年～は、「誰に理解・協力を頂きたいのか。」を考え、実施したい。



効果的な講座の実施に繋がる広報の手段は・・・  
対象者に適した時期・開催時間は・・・  
開催場所は・・・

# キャラバンメイト連絡会を実施

霧島市内のメイトに声をかけ、連絡会を開催。

圏域ごとにグループを分け、ワークを実施。

「キャラバンメイト資格を取得したけど、講座を一人で開催するのは不安」

「講師はできるけど、企画をするのは…」

1グループ、1企画。みんなで出来ることを考える

経験者とペアになり、フォローを図ることで、非活動メイトが活動的に



## 小中学校の理解を得るには？

- ・教育委員会との話し合い
- ・校長・教頭会での広報
- ・PTAの立場で企画
- ・学校の近くに暮らす認知症の方への見守り依頼に重ねて依頼

## 市民の理解を得るには？

- ・参加しやすい場所、参加しやすい時間帯を考えて
- ・広報は市報だけ  
民生委員が広報。
- ・メイトが暮らす自治会で企画

## 商店の理解を得るには？

- ・商工会議所・商工会との話し合い
- ・市民向け講座を通して、商店で働く人に呼びかけ
- ・超高齢社会のご時世、高齢者に優しいお店のメリットを伝える。

## 温泉組合の理解を得るには？

- ・温泉組合との話し合い
- ・特に、地域密着型の温泉は、必死に理解をしてくれる。
- ・ソフト面もバリアフリーな温泉を目指して

# 出会って大切ですよね

## 認知症介護指導者との出会い

## 霧島市ライフサポートワーカーとの協働

**総合相談機能や地域の関係づくり、集まり場づくり、虐待への緊急対応など生活を継続するうえでの「安心」を支援するための拠点となり、その地域に密着したセーフティネットの構築をする役割**

**ライフサポートワーカーの協力のもと、「認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくり」に取り組んでいます。**

# 地域に住み続けることが出来る体制づくり

平成26年5月25日、霧島市民会館にて「ペコロスの母に会いに行く」映画上映会を実施。1000名の地域住民が参加、アンケート回答者500名余、内200名余の方が、住所や連絡先を記入し、認知症高齢者見守り等への協力を表明。

## フォローアップとバックアップ体制の検討

霧島市地域密着型サービス事業者連合会、霧島市介護支援専門員会(あしたぼ会)、霧島市通所介護連絡協議会(やったる会)、その他4名の計61名参加。

地域住民から寄せられた**実際の言葉**「**あなたたち(事業所)は、お年寄りを勝手に連れていく**」をテーマに、高齢者を支えようとする地域と事業所の在り方を検討。





# フォロー・バックアップを受け、 安心して活躍して頂く場を考える

個別ケース、圏域別包括ケア会議、運営推進会議、地域のひろば事業等、**地域とともに地域での住まい方・暮らし方**を考える場はたくさんある。

これらが有機的に活用されれば、ネットワークの構築が推進される。



# 認知症サポートリーダーと考える 地域づくりと高齢者支援

## 暮らす地域を考える

日常生活圏域ごとにグループワークを通して、私たちが暮らす地域を考える。

地域づくりの検討会は、困りごと等のマイナス面を検討しかちですが、今回の検討会は「**お住まいの地域自慢**」と銘打って実施。

**プラスを軸**にすることで、話は弾み今後の協働に向けた繋がりができた。



## マップづくり

マップづくりは、地域住民の**自助・互助**を見える化できるだけでなく、**住民の力を肯定することができ、共助(住民による福祉活動)の取組を形成することができる。**



# 6. 課題

- ①出来る限り多くのサポーターが活躍できる環境を作らねば。  
のべ10,000名のサポーターのフォローアップ体制を再検討。  
新しい総合事業を見据えたサポーターの役割を検討。
  
- ②地域によって差があるのは、何故なのか？  
認知症地域支援推進員は、本当に地域の課題を抽出できているか。  
協同のための信頼を得るには。

# 7. 今後の活動・取組の方向性

①出来る限り多くのサポーターが活躍できる環境を作らねば。

サポーターの所在、連絡体制の構築に向け、ボランティアセンターと連携を図る。認知症の方への支援に限定しない広がりを目指す。

②地域によって差があるのは、何故なのか？

地域によって差があるのではなく、地域住民と自身との繋がりに差があることを理解し、繋がりを意識しながら協働することを目指す。

**以上、ネットワーク構築を中心として発表させて頂きました。**

**どうしても、予算組があるので、各事業縦割りに考えてしまいがちですが、ネットワーク構築を中心に見据えると、各種事業の枠に捉われず色々な活動が伸びやかに行えます。**

**また、当初考えられていた事業内容は、実践してみると大きく変わることがあります。それは、中間で評価をしながら実施されるからこそ。**

**当初考えられていた事業内容以上の成果を求めることに異論を唱える人はいませんよね。**



# 皆様へメッセージ

**大変だなと思った時こそ、周りを見渡してください。あなたは孤独じゃありません。一緒に考える仲間を増やしましょう。**

**一つの事業から一つの成果を得るのではなく、多くの実いを得れることに気づいてください。**

**その実いが繋がる形を思い描くと楽しく活動できますよ。**

**ご清聴ありがとうございました**